

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)上尾物流施設計画	階数	地上5F
建設地	埼玉県上尾市	構造	S造
用途地域	工業専用・準防火	平均居住人員	733 人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年5月 予定	評価の実施日	2019年1月15日
敷地面積	46,207 m ²	作成者	本間進太郎
建築面積	24,378 m ²	確認日	2019年1月15日
延床面積	105,647 m ²	確認者	熊井直



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	・多様多数なテナント入居の為に高い天井の採用、各階パース配置等の優れた倉庫機能を確保	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
建築材料はF☆☆☆☆を全面的に使用している。	・外壁材料に補修期間の長い金属サンドイッチパネルを採用 ・階高が高く、壁長さ比率が低く、床荷重が大きいことなど拡張性に配慮	・歩道上協力空地を設けている。 ・緑地面積を確保し、空地を確保することで敷地内温熱環境を向上
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・エネルギー消費量を考慮し、省エネルギー機器を設置	・節水型衛生器具を採用し、水資源の保護に配慮	・空調や給湯の熱源に燃焼器具は使用しない為、大気汚染物質の排出を行わない ・中高木による地表面被覆の確保 ・従業員駐車場やバイク置場の確保、車両出入口の配置などを配慮し、周辺の交通負荷抑制を図る

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
(仮称)上尾物流施設計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.30			2.6
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						1.6	0.25	-	-	1.6
3.1 昼光利用						1.8	0.30	-	-	
1 昼光率						1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	1.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						1.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		事務所は室内照度を700Lx確保する				4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						1.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.1	0.25	-	-	3.1
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		建築材料はF☆☆☆☆を全面的に使用している。				4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						2.3	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						2.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.3
1 機能性						3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ						2.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						2.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務所の天井高さは3.0mとしている				5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		カフェテリアを設けている				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画						3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ウェザーカバーの材質にステンレス鋼板を使用				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水に塩ビライニング鋼管、排水に硬質塩化ビニル管を使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具の採用、配管系統を区分している、受水槽に蛇口設置				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	基準階高は6.55mとしゆとりを確保。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		倉庫の積載荷重は15000N/m ²	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	歩道上協力空地を設けている	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		年間熱負荷係数[BPI _m]=0.86	4.4	0.01	-	-	4.4
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.55	5.0	0.62	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓の採用に加え、擬音装置付き洗浄便座を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		建設汚泥再生処理土	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		主要なエネルギー消費量を把握して、適切に運用し省エネルギー化	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		給湯、空調とも電気熱源を採用し、燃焼機器は不採用	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車場を建物利用者に対して適切な台数設置する。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明の扱いの配慮事項の過半を満たしている	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)上尾物流施設計画	BEE	1.5	BEEランク	★★★★
------	--------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.9	+	2.6	=	6.5	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上		すばらしい 8.0以上	
					

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.9
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.9
<配慮した内容を記述>			
<ul style="list-style-type: none"> ・空調や給湯の熱源に燃焼器具は使用しない為、大気汚染物質の排出を行わない計画とした。 ・中高木による地表面被覆の確保した。 ・従業員駐車場や自転車置場の確保、車両出入口の配置などを配慮し、周辺の交通負荷抑制を図る計画とした。 			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述>			
敷地外周部に十分な緑地を確保、中高木の植栽を計画した。			

: 入力欄